

令和5年度（令和4年度対象）

教育行政事業執行状況報告書

令和5年8月

白老町教育委員会

目 次

1	点検評価制度の概要等	2
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象及び方法	
	(3) 提出・公表	
2	教育委員会の活動状況	3
	(1) 令和4年度教育委員活動一覧	
	(2) 令和4年度教育委員会会議	
3	表彰制度	7
4	施策成果表	8
	学校教育課	
	生涯学習課	
5	外部評価	35

1 点検評価制度の概要等

(1) 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出・公表することが義務付けられています。

白老町教育委員会では、法の趣旨に基づき、教育行政の事業執行状況として、教育委員会の活動状況及び事務事業ごとに評価を実施した「施策成果表」をまとめました。

(2) 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、令和4年度教育行政執行方針に掲げた重点項目の主な施策、事業項目ごとに内容、成果及び課題等を示しています。

(3) 提出・公表

作成した本報告書については、議会へ報告するとともに、町ホームページ上で公表することにより、町民への説明責任を果たし、広く意見を拝聴しながら信頼される教育行政の推進に努めていくものであります。

～教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等～

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 令和4年度教育委員活動一覧

日 付	活動内容	参加委員
4月1日(金)	教職員辞令交付式	全委員
7月15日(金)	北海道市町村教育委員会研修会	全委員
8月25日(木)	北海道移動教育委員会	全委員
10月4日(火)・ 5日(水)・ 11日(火)	小中学校訪問	全委員
10月18日(火)	総合教育会議	全委員
2月17日(金)	胆振管内教育委員会委員研修会	吉良委員

感染症拡大防止対策により参加を中止した行事等

小中学校入学式

白老町二十歳を祝う会

小中学校卒業式

※教育長を除く

(2) 令和4年度教育委員会会議

第6回 令和4年4月25日	議案	第1号	白老町地域学校協働本部設置要綱の制定について
		第2号	白老町地域学校協働活動推進員設置要綱の制定について
		第3号	史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画策定委員会設置要綱の制定について
	報告	第1号	白老町文化財等運営審議会委員の委嘱について
第7回 令和4年5月23日	議案	第1号	令和4年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会6月会議への議案提出について
		第2号	白老町社会教育委員の委嘱について
		第3号	白老町青少年センター運営委員の選任について
	報告	第1号	白老町青少年問題協議会委員の選任について
第8回 令和4年6月20日	議案	第1号	白老町学習支援員設置要綱の一部を改正する訓令の制定について
		第2号	史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画策定委員会の設置について
		第3号	白老未来学構築委員会設置要綱の制定について
	報告	第1号	令和4年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第2号	令和4年度準要保護児童生徒の特例認定について
		第3号	白老町みんなの基金事業補助金の内定について
		第4号	白老町成人式の名称変更について
第9回 令和4年7月19日	議案	第1号	白老町学校給食運営委員会委員の委嘱について
		第2号	白老町学習者用タブレット端末等貸出要綱の制定について
		第3号	白老町学習者用モバイルルーター等貸出要綱の制定について
	報告	第1号	令和4年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第2号	白老町地域学校協働本部本部員の選任について
		第3号	白老未来学構築委員会委員の選任について

第10回 令和4年8月30日	議案	第1号	令和4年度教育行政事業執行状況報告について
		第2号	令和4年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会9月会議への議案提出について
		第3号	「令和4年度全国学力・学習状況調査」に関する結果公表のあり方について
第11回 令和4年9月27日	議案	第1号	白老町文化賞及びスポーツ賞の諮問について
	報告	第1号	白老町教育委員会委員の任命について
第12回 令和4年10月18日	議案	第1号	令和4年度白老町文化賞及びスポーツ賞等の決定について
	報告	第1号	白老町みんなの基金事業補助金（二次募集）の内定について
第13回 令和4年11月22日	議案	第1号	令和4年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会12月会議への議案提出について
		第2号	白老町地域学校協働活動ボランティア設置要綱の制定について
	報告	第1号	令和4年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第2号	白老町立学校及び学校給食における「食物アレルギー対応マニュアル」の改訂について
		第3号	社会教育主事の任命について
		第4号	令和4年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会10月会議での議決について
第14回 令和4年12月22日 （書面会議）	議案	第1号	「令和4年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」に関する結果公表のあり方について
第1回 令和5年1月17日	議案	第1号	白老町指定無形民俗文化財「白老町伝統文化継承者」候補者の選考にかかる諮問について
		第2号	令和4年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第2回 令和5年2月14日	議案	第1号	令和4年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会3月会議への議案提出について
		第2号	令和5年度教育委員会所管経常費予算について
		第3号	令和5年度教育委員会所管事業費予算について
		第4号	白老町スポーツ施設条例の一部を改正する条例の制定について
		第5号	行政財産の用途廃止（大町教職員住宅）について

		第 6 号	白老町指定無形民俗文化財「白老町伝統文化継承者」の決定について
		第 7 号	令和 4 年度教育委員会所管事業（補正予算）の白老町議会 2 月会議への議案提出について
	報告	第 1 号	萩野公民館の指定管理者の取り消しについて
		第 2 号	令和 4 年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
第 3 回 令和 5 年 2 月 24 日 (書面会議)	議案	第 1 号	令和 5 年度当初学校職員管理職及び学校職員の人事異動について
第 4 回 令和 5 年 3 月 2 日	議案	第 1 号	令和 5 年度当初学校職員管理職及び学校職員の人事異動について
第 5 回 令和 5 年 3 月 20 日	議案	第 1 号	白老町立中学校部活動指導員設置に関する規則の制定について
		第 2 号	白老町立学校の学校医の委嘱について
		第 3 号	白老町立学校の学校歯科医の委嘱について
		第 4 号	白老町立学校の学校薬剤師の委嘱について
	報告	第 1 号	令和 4 年度白老町準要保護児童・生徒の認定について
		第 2 号	「令和 4 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」結果について
第 6 回 令和 5 年 3 月 31 日 (書面会議)	議案	第 1 号	教育委員会事務局職員人事異動について
		第 2 号	教育委員会事務局職員の退職について

3 表彰制度

教育委員会は、本町の文化・スポーツ振興等の向上発展に関し、実績の顕著な個人、団体を表彰し普及振興を図っています。

令和4年度は、次の方々が表彰されました。

文化賞

氏名	分野
山崎 シマ子	アイヌ文化（一般）

文化奨励賞

氏名	分野
菅野 節子	アイヌ文化（一般）
山下 陽花吏	書道（高校）

スポーツ賞

氏名	分野
橘 弘栄	陸上（高校）
エケ ジュニア瑠音	陸上（高校）
納村 琉愛	陸上（高校）
北海道栄高等学校相撲部	相撲（高校）

スポーツ奨励賞

氏名	分野
伊藤 陽桜斗	陸上（高校）
中尾 泰思	陸上（高校）
内田 勘太	陸上（高校）
松岡 賢汰	柔道（高校）
高橋 良汰	水泳（高校）
畑 裕陽	水泳（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部 女子4×100mリレーチーム	陸上（高校）
北海道栄高等学校陸上競技部 女子4×400mリレーチーム	陸上（高校）

学校教育課

1 確かな学力の育成

取組の概要（目的）	主体的・対話的で深い学びを実践し、子供たちの知識・技能と思考力・判断力・表現力等を育成し、子供たちの未来を拓く生きる力となる学力を育成する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 白老町スタンダードの定着と実践 ①全国学力・学習状況調査の実施と結果の活用 ・令和4年4月19日実施 ②標準学力調査の実施と結果の活用 ・令和4年4月19日実施 ③小中一貫教育、小中連携教育の取組の推進 ・町教育研究会の校区合同研修、乗入れ授業実施	①教科に関する調査は、算数以外は全国・全道平均を上回っており、算数も全国平均と同等だった。質問紙調査では、基本的な生活習慣や学習時間等において上回る項目が見られた。 ②全国平均を下回る学年、教科が多いが、一部領域においては全国平均に並んでいる部分もある。
(2) 個別最適化された学びの充実 ①学習支援員の配置 ・学習支援員6名の配置 ②ICT機器を活用した授業の実施 ・教育用タブレットを活用した授業の展開 ③遠隔授業、オンライン学習の推進 ・上記タブレットにより、遠隔授業の実施	①コロナ禍においても学習支援を円滑に行い、放課後学習会等の個に応じた学習活動をサポートする取組も展開できた。 ②全校においてタブレットを使用した授業を実施し、ICT授業への対応が進んでいる。 ③竹浦小・虎杖小において遠隔授業の実施が進んでおり、小規模校における連携ノウハウを蓄積している。
(3) 家庭学習の習慣化と学習意欲の向上 ①漢字検定・英語検定の実施 ・漢字検定（令和4年11月4日） ・英語検定（令和4年9月30日） ②白老寺子屋の実施 ・白老寺子屋（5回）を実施し、6名が受講 ・デジタルサマーキャンプを夏季休業中に実施し、小学生から高校生まで13名が参加し、プログラミングを学んだ。	①【漢字検定（5級～10級）】 総受検者121名のうち、合格者95名 【英語検定（2級～5級）】 総受検者62名のうち、合格者32名 検定受検を通して、学習意欲の向上や計画的な家庭学習を進める機会につながった。 ②新型コロナの影響により回数を減らして実施したが、受講者からは受験に必要な基礎力、応用力を習得できたと概ね好評だった。

課題と今後の方向性

○全国学力・学習状況調査においては、例年全国平均に及ばない状況が続いていたが、今年度においては概ね全国平均を上回る結果となった。ICT環境整備も進み、遠隔授業等の環境整備や授業による実証も着々と進んでいる。今後もICTを効果的に活用しながら、協働的な学びと個別最適な学びの充実を一体的に進めていく。

2 豊かな人間性の育成

取組の概要（目的）	多様な価値観の存在を認識し、豊かな情操や道徳心を培うことや様々な体験活動により、他者と協働することの重要性などの理解を深める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 豊かな心を育む教育活動の推進 ①道徳教育の充実 ②ふるさと学習指導モデルに基づく教育活動 ・「アイヌ文化を学ぶふるさと体験学習」実施（各校該当学年） ③「しらおい子ども憲章～ウレシパ（育ち合う）」の具現化		②各校で古式舞踊や文様切り絵等の体験授業を実施し、合計325名の児童生徒がアイヌ文化への理解を深めた。
(2) いじめや不登校などへの対応の充実 ①いじめ防止基本方針に基づく取組の推進 ・いじめの把握のためのアンケート（年2回）やいじめ問題への対応状況調査（年3回）を実施 ・不登校対策会議（年2回）、ケース会議（随時）、SSWと教育支援センター指導員の学校訪問、町生徒指導連絡協議会（年4回）		基本方針の理解促進や各種調査により、実態把握と早期発見、組織的な対応につながった。 参加者（学校、教委、教育支援センター、SC、SSW）が、現状把握や意見交換を行うことで、児童生徒の実態に応じた支援計画を協議することができた。
(3) 読書活動の推進 ①第4次白老町子供の読書活動推進計画に基づく取組の推進 ・学校司書・図書担当教諭による各校での読書推進活動		①各校の担当者と学校司書を中心として、読書活動及び読書環境の充実に努めた。
(4) 体験活動の充実 ①認知症サポーター養成講座、福祉施設訪問、車いす体験 ②ボランティア活動の推進 ③職場体験、職場見学の実施 ・各中学校で職場体験の実施（白老中18事業所・白翔中24事業所）		③新型コロナの影響により縮小していた職場体験活動を、少しずつでも感染対策に配慮しながら開催できるよう、各校および受け入れ先の事業者で工夫を凝らして実施した。

課題と今後の方向性

- コロナ禍が続く中、少しでも安全・安心に配慮しながら学習・体験活動を切らさず実施できるよう模索しながらの活動ではあったが、前年・前々年よりも安定した取組を実施することができた。
- いじめ防止について、児童生徒による取組が各校で行われたことも好事例であり、引き続き、児童生徒の主体性を伸ばし、豊かな心を育む教育活動を推進していく。

3 健やかな体の育成

取組の概要（目的）	生涯を通して、健康に過ごすことができるよう望ましい生活習慣の確立、体力の増進・運動能力の向上、健康管理能力の育成や食育を推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 体力・運動能力の向上 ①全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用 ②体力向上プランの作成 ・調査結果から「体力向上プラン」を作成し、保健体育の授業や年間指導計画の改善、体力づくり（一校一実践）を推進した。		①体力合計点は、中学生男子を除いて概ね全国平均と同等という結果となった。 質問紙調査では、「体育の授業は楽しい」と回答した児童の割合が全国平均を上回り、年間指導計画の改善による成果が見えた。
(2) 食育の推進 ①安全安心な学校給食の提供 ・学校給食における衛生管理の徹底 ・安全安心な給食を提供する（給食稼働年間日数 200 日） ②アレルギー対応給食の提供 ・アレルギー対応給食の提供（4校7名） ・保護者、学校、関係機関との連携強化と資質向上（アレルギー対応委員会、学校給食運営委員会 2 回開催、給食担当者会議 3 回開催） ③地場産物の活用や伝統料理など、ふるさと給食の提供 ・ふるさと給食（アイヌ料理・地場産物料理）年 6 回 ④子どもが作るお弁当の日（年 2 回） ⑤リクエスト給食の提供 ・児童生徒が選ぶ献立から提供（年 10 回）		①「学校給食衛生管理委員会」を新たに設置し、衛生管理の徹底を図り、学校給食の安全な提供に配慮した。 ③白老の特産品や地場産物を活用した食の体験やアイヌ民族が食していた食材を学べるカレンダーの作成、配布を通じて、ふるさとへの理解や愛着、感謝の気持ちを育てることにつながった。 ⑤アンケート形式で考えてリクエストすることにより、食への興味・関心を高め、食に関する知識と選択する力を養った。
(3) 健康教育の充実 ①子ども版出前講座の活用 ・中学校 2 校で「性教育講話」を開催 ②薬物乱用防止教室の開催 ・中学校 2 校で薬物乱用防止教室を開催 ③フッ化物洗口の実施 ・R4 年 8 月より小学校 4 校にてフッ化物洗口を再開 ④ピロリ菌検査の実施		①性に関する講話に加えて、赤ちゃん人形の抱っこ体験等も実施し、命の重さ・大切さの理解につながった。 ③コロナ禍で休止していたフッ化物洗口を、感染対策に配慮した形で再開することができた。

課題と今後の方向性

- 食育の推進については、地場産物使用拡大のための調達課題ではあるが、引き続き調理技術の向上に取り組み、学校、家庭、地域と連携した食育を推進する。
- 児童生徒が生涯を通じて健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣の定着や運動習慣づくり、健康教育の充実を今後も継続していく。

4 特別支援教育の充実

取組の概要（目的）	インクルーシブ教育の推進により、特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様で柔軟な学びの場を整備する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用 ①個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画により、長期的な視点で一貫かつ的確な教育支援を行う。 ・個別の指導計画により、学校生活において障がいのある児童生徒と一人ひとりの教育的ニーズに対応したきめ細かい指導や支援を行う。 ②子育て支援ファイル「みらいすけっち」の普及と活用		①指導計画作成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童生徒 個別の教育支援計画 100% 個別の指導計画 100% ・通常学級在籍児童生徒 個別の教育支援計画 79名 個別の指導計画 83名
(2) 特別支援学級の環境整備 ①特別支援教育支援員の配置 特別支援教育支援員 6 名を配置 ②パートナーティーチャー派遣事業や外部講師の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧支援学校からパートナーティーチャーを派遣 ③特別支援学級担当教員の免許取得奨励 ④教育支援委員会の開催と専門性を高める研修の実施 ⑤通級指導教室の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・白老小学校と白老中学校で通級指導教室を運営 		①支援員が特別支援学級担当を補助することで、より細やかな指導につながった。 ②当該児童の観察や授業参観、教育相談を実施することで、特別支援教育担当教員のスキルアップにもつながった。 ⑤白老小・白老中でそれぞれ連携しながら教育的ニーズへの対応を行うとともに、小学校から中学校への連続性をもった通級指導を実施することができた。

課題と今後の方向性

○関係機関との連携により、様々な視点や専門的な見地から児童生徒の状況を把握し対応することが求められている。関係機関との情報共有や連携強化を図りながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。

5 ふるさと教育の充実

取組の概要（目的）	歴史や伝統文化など白老町の多様な教育資源を活用し、ふるさとへの愛着や多文化共生の心を育む取組を発達段階に応じながら推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 白老未来学の構築と推進 ①小中学校の一貫したカリキュラム作成 ・白老未来学構築委員会・WG を開催（全3回） ・「白老未来学指導計画」の策定 ②ふるさと学習指導モデルの実践 ③ふれあいふるさと Day の実施 ・小中学校6校でふれあいふるさと Day を開催（年2回） ④アイヌの人々の歴史と文化を学ぶ教職員研修 ・「子ども達に伝えたいアイヌ文化」講座（教職員研修）の実施（令和4年8月2日、3日） ⑤仙台藩元陣屋資料館の活用		①白老未来学構築委員会と同ワーキンググループを組織し、従来のふるさと学習指導モデルを継承する「白老未来学指導計画」を策定した。 ③地域住民や防災マスター等の協力を得ながら、防災学習やメディアコントロール教室等、多様な取組を行うことができた。 ④教職員研修は感染症対策のため胆振管内の教職員に限定して開催し、指導に当たる教員の学びを深めることができた。
(2) 外国語教育の充実 ①ALT（外国語指導助手）の派遣 ・ALT2名を各校へ派遣し、小学校の外国語専科教員、中学校の英語科担当教員と連携しながら外国語の授業を行った。 ②児童生徒の国内外交流事業の推進		①児童生徒がネイティブの英語に触れる機会が増え、英語学習への意欲向上につながっている。また、外国語専科教員が授業を行うことにより、他の教員の負担が軽減され、働き方改革にも寄与している。
(3) 社会科副読本の改訂・活用 ①社会科副読本のデジタル化の推進 ・社会科副読本の授業での活用		副読本のデジタルスキャンによるPDF版副読本の作成により、限定的ではあるがデジタル化副読本の利用が可能となった。

課題と今後の方向性

- 「白老未来学指導計画」の策定により、今後は本指導計画に基づき「郷土を愛し誇りに思う子」「自らの夢の実現に向かって努力する子」を育てていく。
- デジタル化副読本の利用を全ての学校で実施している。今後は、次回の副読本改訂に併せて書き込み等も可能なデジタル教科書ベースの副読本作成に取り組んでいく。

6 地域とともに育つ学校づくり

取組の概要（目的）	家庭や地域社会も教育の場となり、保護者や地域住民が目標を共有しながら活動し、地域全体で子供たちを育む取組を進める。
主な施策と取組内容	
(1) 地域学校協働本部活動の推進 ①コーディネーターを活用した地域人材・地域の教育資源の活用 ・「地域学校協働本部」の発足、協働本部会議の開催（年2回） ・「地学協働活動ボランティア」の募集を開始 ②地域への教育活動の周知や広報 ・コミスクだよりを発行し、各学校や町内会で回覧	①2中学校区を統合した「地域学校協働本部」体制へ移行した。各中学校区での活動の共有が進み、地学協働活動ボランティアへの登録を促すことにより、地域人材の発掘やより多様な体験活動の提供につなげる体制が整った。
(2) コミュニティ・スクールの活動推進 ①各学校の実態に合わせた活動の推進 ②活動内容の周知や広報の推進 ③学校運営協議会の開催 ・各校で学校運営協議会を開催（2中学校区で延べ13回実施）	③学校運営協議会において、学校運営方針や学校評価、学力の定着、メディアコントロール等の様々な課題について協議が行われ、地域ぐるみで子供の成長を支える体制づくりに取り組んだ。
(3) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携による円滑な学びの接続 ①白老町版スタートカリキュラムの作成 ・「白老町幼保小連携・接続プラン」の運用 ②乗入れ授業、出前授業の実施 ・白羽中校区（萩野小、竹浦小、虎杖小）で乗入れ授業を実施 ③幼児学童連絡協議会の活動推進 ・町教委と連携し、上記連携・接続プランを運用	①連携・接続プランは、「安心・自立・成長」を観点に策定され、スタートカリキュラムとあわせて、幼保小の引継ぎや小学校入学時のカリキュラムに活用している。 ②新型コロナの影響により実施できなかった学校もあったが、小中では算数・数学の乗り入れ授業や幼保小での作品交流などを行うことができた。

課題と今後の方向性

- 地域学校協働本部を一本化し、今後は地学協働ボランティアの拡充や、部活動支援・学習支援など新たな活動についても検討し、推進する。
- 各学校の特色を生かした学校運営協議会の活動を通して学校と保護者、地域住民等が一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組み、特色ある教育活動を展開していく。

7 安全・安心の保障

取組の概要（目的）	子供たち誰もが家庭の経済状況や地理的条件の影響を受けず、未来に希望を持ちそれぞれの夢に向かって頑張ることができるよう子供の学びを保障する。
主な施策と取組内容	
（1）学びのセーフティネットの充実	成果
①就学援助の実施 ・年間112件（認定率28.7%）を認定。 ②スクールソーシャルワーカーの配置と活動支援 ・スクールソーシャルワーカー2名を配置 ③白老寺子屋の実施（※再掲） ④放課後学習の充実（※再掲） ⑤漢字検定、英語検定等各種検定の実施（※再掲） ⑥1人1台タブレット端末整備と活用	①学用品費や修学旅行費等を援助することで、経済状況によらず教育活動を保障する支援となった。 ②様々な理由で困難を抱える家庭に対し、家庭訪問や教育相談を行うほか、関係機関との情報共有等を行い、状況の改善につなげた。 ⑥タブレット端末活用の環境整備やICTを効果的に活用した授業づくりについて整理した。
（2）安全教育の充実	成果
①救急救命講習の実施 ・萩野小、白老中、白翔中で救急救命講習を実施 （白老中・白翔中は1日防災学校のメニューとして実施） ②学校版危機管理マニュアルの継続的な見直しと運用 ③食物アレルギー対応マニュアルの見直しと適正な実施、教職員研修の実施 ④通学路安全プログラムによる通学路の点検 ⑤1日防災学校の実施 中学校2校で1日防災学校を実施。また小学校2校が津波避難訓練や道・町の総合防災訓練に参加した。	①救急救命講習を通じて、緊急時の救命手順や心構え等を学習することができた。 ③新たにアレルギー対応の学校給食に関する実務マニュアルを作成することで、共通認識のもと確実な対応が可能となった。 ⑤1日防災学校や避難訓練への参加を通じて、児童生徒が白老町の地域特性による災害の状況や、避難所運営の知識等を習得することができた。

課題と今後の方向性

- 食物アレルギーの対応を安全・確実に行い、マニュアル更新や研修を継続して取り組む。
- 救急救命講習や1日防災学校の実施、避難訓練への参加等により、児童生徒が災害に対する知識・理解を深めるとともに、講習や訓練を通して地域の人たちの関わりを深めている。
- 1人1台タブレットの導入から1年が経ち、各校で授業に活用する頻度はかなり向上している。理解力の向上や教材作成の効率化など様々な面で有用であることから、引き続きタブレット端末の活用を進めていく。

8 学校の組織運営体制の充実

取組の概要（目的）	教職員の資質向上や学校の組織としての在り方などを見直し、複雑化・多様化した課題を解決することのできる「チームとしての学校」づくりを進める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 教職員の働き方改革の推進 ①白老町アクションプランの取組推進 校務支援システムの積極的な活用や時間外勤務縮減に関わりコアチームの設置による業務改善等を行った。 ②教員業務支援員の積極的な活用 ・小中学校5校への配置 ③部活動指導員の外部指導員、外部コーチの活用検討 ④ICT 機器を活用した授業や研修の実施 ・会議・研修等のタブレット端末活用によるオンライン開催		①個の気付き、チームの対話、地域との協働が促進され、業務改善が進んでいる。 ②教員業務支援員により教員の業務が軽減され、働き方改革の推進につながった。 ④コロナ禍においても安定的に研修を開催できるため、白老町だけではなく道や国の研修・講演もオンライン開催される頻度が増え、もはや新たな研修の形式として定着している。
(2) 教職員の資質向上 ①能代市教育視察訪問 ・能代市教育視察訪問の実施（令和4年10月19日～21日） ・能代市教育視察報告会の実施（オンライン開催） ②教職員の服務規律保持 各種会議等を通じて指導するとともに、各校において全体研修と個別研修、一校一実践の取組を実施した。 ③校外研修への参加支援		①3年ぶりに能代市への教育視察訪問を実施した。各校から選抜された教職員等6名が秋田型授業の視察を実施し、町内の教職員71名が参加する報告会により、他の教職員へも視察で得たものを伝達することができた。 ②計画的、かつ時機を捉えた研修が実施され、教育公務員としての意識の向上が図られている。

課題と今後の方向性

- 各校の創意工夫でタブレット端末を活用しての校務を円滑に進めており、それぞれの学校で働き方改革の推進につながっている。
- 能代市への教育視察訪問実施により、本町における探究型授業の定着が進んでいる。今後も新型コロナウイルスの状況を注視しながら、視察訪問を継続していきたい。
- 働き方改革の取組みの効果検証を行い、本来の目的を達成しているか確認する。

9 教育環境の充実

取組の概要（目的）	学校施設の安全性の確保や防災機能の強化、老朽化対策などを庁内関係部署と連携しながら、学習環境の充実に努める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 学校の適正規模の検討 ①適正規模の方針検討、作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内検討会議の実施、適正配置計画（素案）の検討 ・ 竹浦小・虎杖小による遠隔授業の実施 		学校だけではなく地域や町の在り方等、様々な観点から適正規模の方針検討を行うべく、役場内の関係課を集め意見聴取と方針の検討を実施した。竹浦小・虎杖小では「全道へき地・複式教育研究大会」において、竹浦小と虎杖小をオンライン接続して実施する公開授業を発表した。
(2) 教育施設の整備・充実 ①関係部署と連携した教育施設や他の公共施設の複合化検討 ②学校施設の耐震化100%の早期実現 萩野小学校の大規模改修を実施（2か年計画の2年目） ③学校図書館の蔵書充実		②令和3年度に引き続き、老朽化した校舎の内部・外部を改修することで、安全かつ快適な学習環境を構築することができた。また、耐震化未対応の棟を取り壊したことで、白老町内小中学校における構造体耐震化率100%を達成した。

課題と今後の方向性

- 萩野小学校の大規模改修完了により、建物（構造体）の耐震対策は完了したが、建物内の窓や照明、建具等（非構造部材）についても今後点検・改善を実施していく。
- 耐震化以外においても、学校施設の老朽化によって様々なトラブルが発生しており、児童生徒の安全確保のためにも、計画的な修繕が必要である。
- 児童生徒数の減少が進み、白老町の学校規模も縮小しているため、今後の教育環境の充実に努めるため、基本計画を策定する。

令和4年度白老町学校教育基本計画進捗状況結果

目標値達成状況

22項目中16項目

72.7%

評価指標		目標値に対する達成率
a	順調	90%以上
b	概ね順調	70%～89%
c	やや遅れている	50%～69%
d	遅れている	49%以下
-	未着手または評価不可	未着手(0%)、評価不可

基本方向1 確かな学力の育成		実績	達成状況
自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	児童	86.5%	a
	生徒	58.9%	a
授業でもっとICT機器を活用したい児童生徒の割合	児童	88.0%	a
	生徒	83.6%	a
学校の授業以外に勉強する時間が1時間以上する児童生徒の割合	児童	69.2%	a
	生徒	71.3%	a
基本方向2 豊かな人間性の育成		実績	達成状況
自分には良いところがあると思う児童生徒の割合	児童	82.7%	a
	生徒	85.7%	a
いじめはどんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合	児童	98.1%	a
	生徒	94.6%	a
将来の夢や希望を持っていると答えた児童生徒の割合	児童	78.9%	b
	生徒	62.5%	b
学習を除く1日の読書時間が「10分以上」の児童生徒の割合	児童	59.7%	a
	生徒	41.1%	b
基本方向3 健やかな体の育成		実績	達成状況
運動やスポーツをすることは好きである児童生徒の割合	児童	76.6%	a
	生徒	75.4%	a
毎日、朝食を食べている児童生徒の割合	児童	90.4%	a
	生徒	89.2%	a
学校給食における地場産物活用の割合		59.5%	a

基本方向4 特別支援教育の充実		実績	達成状況
個別の指導計画を作成している割合		100%	a
子育て支援ファイル「みらいスケッチ」普及率		—	—
基本方向5 ふるさと教育の充実		実績	達成状況
運動やスポーツをすることは好きである児童生徒の割合	児童	76.6%	a
	生徒	75.4%	a
毎日、朝食を食べている児童生徒の割合	児童	90.4%	a
	生徒	89.2%	a
基本方向6 地域とともに育つ学校づくり		実績	達成状況
地域の行事に参加している児童生徒の割合	児童	53.0%	b
	生徒	39.2%	b
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合	児童	63.8%	b
	生徒	52.5%	c
基本方向7 安全・安心の保障		実績	達成状況
難しいことでも失敗を恐れず挑戦する児童生徒の割合	児童	75.0%	a
	生徒	66.0%	b
人の役に立つ人間になりたい児童生徒の割合	児童	92.3%	a
	生徒	98.2%	a
基本方向8 学校の組織運営体制の充実		実績	達成状況
算数・数学の授業がわかる児童生徒の割合	児童	84.6%	a
	生徒	87.5%	a
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童生徒の割合	児童	82.7%	a
	生徒	71.4%	a
基本方向9 教育環境の充実		実績	達成状況
学校図書館図書標準率を達成している学校数		5校/6校	a
学校施設耐震化		100%	a

生涯學習課

1 青少年教育の推進

取組の概要（目的）	ふるさを学ぶ体験活動を通じて、自主性・社会性を育むとともに、豊かな感性と郷土愛の醸成を図り、次代のまちづくりを担う青少年の健全育成を推進する。
主な施策と取組内容	
(1) しらおいの魅力に気づき、ふるさとへの誇りや愛着を育むふるさと教育の推進	①小中高生 55 名が参加して、海岸の砂やホッキ貝など、まちの資源を活用した製鉄体験を行った。
◆豊かな自然や歴史など地域資源を活かした体験イベントの実施 ①公民館講座事業「たたら製鉄実演体験」開催 （開催日：5/5）	
(2) 子供たちの主体性や協調性を育む交流機会の充実	①・②新型コロナの影響により事業中止。
◆歴史や文化に親しむ交流機会の充実 ① つがる市小学生との交流 ◆国際感覚を養う交流機会の充実 ② ケネル市との国際交流	
(3) 地域活動やまちづくりの担い手となる人材の育成	①地域の青年による実行委員会体制を構築し、企画運営を主体に取り組み地域活動への参画意欲を高めることができた。（86名参加）。
◆新成人を含む地域の青年の主体的な参画による二十歳を祝う会の開催 ① 白老町二十歳を祝う会（開催日：1/8） ◆北海道教育委員会と連携したリーダー養成研修への派遣 ② フロンティアリーダー養成研修への派遣 （開催日：1/12） ◆地域の青年団体等の活動への支援 ③ 地域の青年団体等が実施するイベントや取組への支援	②新型コロナの影響でオンライン開催となったが、希望者なし。 ③地域の NPO 団体などが企画する小中学生向け事業や地域行事に対して各学校との連絡調整を行うなど、まちづくり活動への参画を支援した。

課題と今後の方向性

- 青少年における姉妹都市交流については、コロナ禍で令和2年度から事業中止が続いているため、今後の在り方について協議する必要がある。
- 「白老町二十歳を祝う会」の会場をウポポイに変更し、参列者がアイヌ文化の振興と発展をPRするアンバサダーとしての活躍も期待する。

2 成人教育の推進

取組の概要（目的）	町民ニーズや地域課題の把握に努め、公民館講座をはじめとした学びの場の充実や、女性が社会で活躍できる基盤づくりを推進する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 町民ニーズを捉えた多様な「公民館講座」の充実 ◆公民館等の社会教育施設において、地域人材や関係団体など、多様な主体と連携した講座の開催 ①公民館講座事業「クリスマスの花を楽しもう」（開始日：12/18） ◆ICTを活用した取組の推進 ②公民館講座事業「プロに学ぶスマホでかんたん映像制作教室」（開催日：12/21 他計3回開催）	①クリスマスの花をテーマとした生け花体験を通して、池坊生け花の歴史を学ぶことができた。（15名参加） ②まちの魅力発信をテーマに映像制作することで郷土への愛着を深めるとともに、ICTへの理解を深めることができた。（12名参加）
(2) 地域課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するための学習機会の提供 ◆社会教育関係団体や町内会組織等と連携した講座の実施 ①公民館講座事業「地域課題セミナー」（開催日：1/28）	①冬の防災と地域づくりをテーマに開催し、町民の防災意識を高めるとともに持続可能なまちづくりへのヒントを得ることができた。（90名参加）
(3) 女性が社会で活躍するための人材育成及び支援 ◆国内女性リーダー養成研修等への派遣 ①胆振女性リーダー養成研修会への派遣（開催日：12/17） ◆地域で活躍する女性に学ぶ女性向け講座の開催 ②公民館講座事業「陶芸体験でつなぐ公民館女性講座」（開催日：10/25）	①オンラインで行われた「男女共同参画推進フォーラム」の基調講演と鼎談を受講して、今後の取組につながる良い学びの場にする事ができた。（5名参加） ②町内で活躍する女性を講師に、講話や陶芸体験を行うことで、挑戦意欲の醸成を高めることができた。また、参加者同士の交流が活発に行われ、つながりづくりの機会にもなった。（9名参加）

課題と今後の方向性

- 公民館講座参加者の満足度は高く、習得したスキルを活用した取組も見られるため、今後は更なる活用が図られるよう支援していく必要がある。
- コロナ禍によりオンラインでの研修や講座が増えていることから、より効果的な学びとなるようICT機器への理解を深めるための機会が求められている。
- 急速に進む人口減少や少子高齢化により、地域の活力の低下が懸念されていることから、公民館等の社会教育施設がつながりづくりの拠点として活用されることが求められている。

3 高齢者教育の推進

取組の概要（目的）	高齢者が長く健康に生活を送ることができるまちづくりを推進するため、「社会を支える高齢者像」への転換を地域全体で進めていく。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 高齢者の知識を活かした事業、世代間交流の推進 ◆世代間交流の推進 ①「むかしの遊び」伝承活動 ◆人材の発掘と活動機会の創出、支援 ②地域交流推進プランの策定		①3年振りに「むかし遊び」伝承活動を実施した。また、新規事業として、調理実習補助による白老東高校生との世代間交流を実施した。 ②高齢者大学生有志による「世代間交流事業協力メンバー」を組織整備し、有効に活用した。
(2) 高齢者による主体的な学習、健康増進を支える環境づくりの促進 ◆高齢者関連事業の開催、支援 ①公民館講座事業「高齢者生きがいづくり事業」 ◆健康づくりに資する機会の創出、支援 ②白老町元気まちねんりんピック		①高齢者大学定例講座との共催で、「桂三段独演会」「フレイル連続講座」を開催した。 ②3年振りに開催し、多くの参加者が各種競技を通して、健康づくりや親睦交流を図った。
(3) 高齢者大学の主体的な運営の促進 ◆高齢者大学の活動内容の充実、積極的な周知活動による参加奨励 ①白老町高齢者大学の運営		①積極的な外部発信に努め、多数の新入学生を獲得した。また、計画的に避難訓練を実施し、危機対応力の強化を図るとともに、選択型の特別講座を新設し、学習内容や学習形態の多様化を図った。
(4) 高齢者の意識や認識の転換に向けた取組の促進 ◆これからの高齢者モデルの設定と発信、高齢者に関する実態把握と分析 ①高齢者関係団体と連携した、高齢者に関する実態把握と分析		①実態調査は未実施だが、高齢者大学の学生実態分析に基づく、目指す高齢者モデル像を位置づけた「高齢者大学再編プラン」を作成した。

課題と今後の方向性

- 町としての高齢者教育の充実に向け、その中核となる高齢者大学の学習内容の活性化や、移転や再編に向けた具体策の策定・推進が喫緊の課題である。
- 地域社会において、高齢者がいきいきと活動し存在感を発揮するために、世代間交流などの地学協働活動を高齢者の地域交流促進のための有効なツールとして位置づけるとともに、高齢者組織や団体のネットワーク化など積極的な参加を促す取組の工夫が必要である。

4 社会教育施設・スポーツ施設の整備・活用

取組の概要（目的）	町民が安心して快適に利用できるよう、施設における利用実態を的確に把握しつつ、既存施設の有効活用と利用者目線に立ったサービスの向上に努める。
主な施策と取組内容	
(1) 計画的な修繕や設備の充実による利便性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ◆社会教育施設やスポーツ施設の現状の把握と施設毎の分析 <ul style="list-style-type: none"> ①施設の現状把握と分析 ◆修繕改修計画の策定と適正な維持・管理 <ul style="list-style-type: none"> ②修繕改修計画の策定に向けた調査・協議 ◆耐震化や長寿命化の検証 <ul style="list-style-type: none"> ③各種改修事業 ◆コロナ禍における利用環境 <ul style="list-style-type: none"> ④地区公民館非接触型入館システムの導入 	①定期的に巡回を実施し安全面に配慮した管理を行った。また、修繕委託している白建協と情報共有を密に行った。 ②日常的な点検や施設管理者等への聞き取りの結果を踏まえて、施設管理部署として利用実態や町民ニーズを踏まえた修繕をすることができた。 ③竹浦コミセンの駐車場環境改善等、安心・安全な公共施設の利用に供した。 ④地区公民館非接触型入館システムを導入により、コロナ禍でも安心して利用できる環境を提供できた。
(2) 施設の有効活用と検討、機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ◆指定管理者との連携による施設の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ①指定管理者との連携による施設の有効活用 ◆スポーツ施設の適正な管理と既存施設及び機器を活用した事業提案に対する支援 <ul style="list-style-type: none"> ②トレーニング機器を活用した健康づくりの推進 	①プールにおいて施設内の限りあるスペースを活用し、プール利用へのきっかけづくりに取り組んだ。 ②コロナの状況も落ち着き、感染対策を講じた中で、継続して利用され運動習慣を取り戻しつつある。
(3) 利用者満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ◆親切丁寧な対応で親しまれる施設づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ①親切丁寧な対応で親しまれる施設づくり 	①コロナ過において使用後に消毒するなど、利用者に向けて安心・安全な利用環境を提供できた。

課題と今後の方向性

- 町の公共施設適正配置計画の策定が進められており、将来に向けた社会教育施設やスポーツ施設のあり方について整理するとともに、具体的な改修等の計画を作成していく必要がある。
- 老朽化に対応するための予算確保が十分とは言えないため、故障が発生した際に速やかな対応ができるように、専門業者との日常的な情報共有と関係性の構築をはかる。
- プール以外のスポーツ施設においては、貸館以外の利用者との関わりが乏しく、ネットワークを広げ施設の有効活用を促進するよう促していく。

5 社会教育活動の推進

取組の概要（目的）	社会教育団体への支援強化や、多様な団体を結び付けるコーディネート機能の充実を推進する。	
主な施策と取組内容		成果
1) 社会教育関係団体等の活動の支援 ◆持続可能な団体活動のための相談、支援 ①白老町婦人団体連絡協議会への支援		①理事研修会では「婦連協の現状と今後の在り方について」話し合われ、改めて会の存在意義を確認し、今後の方向性の確認をした。
(2) 地域の多様な団体の連携促進 ◆町民の意見をもとにした社会教育活動の推進 ①白老町社会教育委員の会議（開催回数2回） ◆団体活動のネットワーク化、リーダーやコーディネーターの発掘と養成 ②道教委と連携した各種養成事業への参加奨励		①社会教育委員の会議における意見を踏まえ各活動の推進を図った。 ②7月より文化芸術担当の地域おこし協力隊が配属になり、団体の連携促進につながる、多様な団体との関わりができた。
(3) 活力あるまちづくりを進めるための社会教育活動への支援 ◆国や道などの補助事業による財源確保 ①コミュニティ助成事業などの活用促進 ◆みんなの基金事業等、各種補助金を活用した活動の支援 ②みんなの基金事業の活用 ◆町民の文化活動及びスポーツ活動への支援・表彰 ③児童・生徒の文化活動及びスポーツ大会派遣助成事業		①文化庁の伝統文化親子教室事業開催に向け、取り組みに対する支援を行った。 ②7団体に対する支援を実施した。 ③文化・スポーツ分野での全道・全国大会に出場する際の派遣費の一部を6件助成した。
(4) 学習を支える情報収集と情報発信 ◆町の公式 facebook を活用した社会教育事業等の情報発信 ①facebook を活用した情報発信		①SNS を活用して事業の開催周知や報告を行うことで、町内外に対して広く生涯学習に関する情報を発信することができた。

課題と今後の方向性

- 社会教育活動団体の会員数や組織の弱体化が顕著であるが、地域おこし協力隊が団体間の懸け橋となり、コーディネートされる中で活動の幅を広げていくことが望まれる。
- SNSにはリアルな情報提供を定期的に行い、利用者の定着化が求められる。広く情報発信していくことにより、社会教育の振興を図っていく必要がある。

6 芸術文化活動の推進

取組の概要（目的）	「歴史と文化のまち」にふさわしい、文化の薫り高く潤いのあるまちづくりに向けて、地域における文化活動の継承に努める。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 豊かな心を育む芸術鑑賞事業の推進 ◆芸術鑑賞事業等の開催 ①しらおい創造空間「蔵」を活用した芸術鑑賞事業		①NPO 法人と定期的に情報交換を行うことで、蔵の現状や課題の把握を進めることができ、多様で魅力的な芸術鑑賞事業の創出につなげることができた。
(2) 町民がまちの魅力や良さに気付く学習機会の創出 ◆地域について学ぶ講座の開催 ①公民館講座事業 講演会「詩人 文月悠光が語る郷土の歌人」 ◆地域への学びを深める学習教材の作成 ②映像教材『しらおいふしぎ発見プロジェクト』の作成・活用		①詩人の語りにより郷土の歴史や文化を学ぶことで、まちへの愛着を育むことができた。 ②公民館講座事業で実施した映像制作教室において、「人」と「自然」をテーマにした2本の映像を制作し、YouTube で配信した。
(3) 文化団体連絡協議会を中心とした特色ある地域文化の振興 ◆各地区における文化祭の開催 ①白老町文化祭（竹浦地区文化祭は中止） ◆各団体の発表機会の提供・支援 ②ウイマム文化芸術プロジェクトへの協力 ◆町内で活動する文化団体への活動支援 ③白老町文化団体連絡協議会への支援		①文化活動の成果発表や鑑賞機会を設けたことで、まちの文化継承や発展に寄与することができた。 ②「歩いて巡る野外写真展」に対して、古写真などの提供や共同調査を行い、歴史への理解を深めることができた。 ③町内各文化団体のコーディネーター役を担う協議会に対して、補助金の支出や指導・助言を行うことで、多くの町民が郷土の文化に親しむ機会を提供することができた。

課題と今後の方向性

- 高齢化の影響により各団体の存続が困難になっていることから、継続的な支援を行うとともに、地域おこし協力隊やスポーツ分野との連携など、新たな活動の在り方を模索していく必要がある。
- 地域における文化活動の継承に努めるため、地域おこし協力隊等の活用を図り、団体同士の結びつきをコーディネートする人材の育成や町内の小中学校や高等学校が取り組む地域学講座の充実が求められる。

7 文化財の保存・活用

取組の概要（目的）	本町の貴重な文化遺産の保存と活用を図り、優れた歴史と文化を後世に着実につなぐための取組を推進する。
主な施策と取組内容	成果
(1) 陣屋跡の環境整備及び多角的な活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 北海道遺産「仙台藩白老元陣屋」の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ① 懸垂幕設置、記念講演会の開催 ◆ 史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の進行管理 <ul style="list-style-type: none"> ② 整備基本計画策定委員会の開催及び各種調査の実施 ◆ 町民との協働による史跡の管理と活用 <ul style="list-style-type: none"> ③ 文化財等運営審議会の開催、文化財指定、パトロール等 	<ul style="list-style-type: none"> ① 仙台藩白老元陣屋が令和4年10月13日付けで北海道遺産に選定された。 ② 第2次整備基本計画の基礎資料とするための発掘調査や植生調査を行った。 ③ 町無形民俗文化財「伝統文化継承者」2名を認定した。
(2) 町民に親しまれる博物館活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 文化財を活用したイベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ① 陣屋跡積極活用プログラム「こどもの日イベント」209人、同活用プログラム「陣屋の日イベント」130人 ◆ 展示の充実 <ul style="list-style-type: none"> ② 特別展、企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・『伝統文化継承者展1 相木久紀展』1,149人 ・『武者人形展』1,266人 ・『白老の駆逐』937人 ・『郷土の歌人 満岡照子展』436人 ・『ドローンが見た輝ける白老の風景展』254人 ・『麗しの雛人形展』215人 ・『伝統文化継承者2 山崎シマ子・菅野節子二人展』353人 ◆ 質の高いガイド人材の養成、資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ③ 仙台藩白老元陣屋資料館友の会への支援 ④ 地域人材育成・活用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道東方面における陣屋跡視察研修調査4日間 13人 ・ 館長とまち歩き講座3回 32人 ・ おもてなしコミュニケーション講座4回 64人 ・ ふるさと再発見シリーズVOL.7 発行 2,000冊 ◆ 資料館入館者及び入館料の増加 <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 入館者 3,982人増の 9,290人。入館料 686千円増の 1,314,280円 	<ul style="list-style-type: none"> ① 実行委員会組織をもって開催し、陣屋跡や資料館に対する愛着と理解を図ることができた。 ② 各種展示会や体験講座、講演会などの資料館活動を通して、本町の誇る文化・歴史・自然などを学び、理解を深めることができた。これらを通して来館を促すとともに、展示資料の入れ替えを行い、多くの資料が町民の目に触れる機会となった。 ③ 資料館友の会に新たに白老東高校生が入会し、会員とともにホスピタリティあふれるガイド活動を展開した。また、資料館活動にも深く関与し大きな評価を受けている。 ④ ガイド人材の育成のための、まち歩き講座や道東での研修調査、コミュニケーション講座などを通して、ガイドとしてのスキルアップにつなげることができた。 ⑤ 定期観光バスの周遊施設に組み込まれたことにより、資料館入館者及び入館料の大幅増に繋がった。

(3) 国立アイヌ民族博物館との連携強化	①白老の偉人に関する共同調査を
◆調査研究体制の整備、充実、歴史的遺産の相互活用 ①ウポポイとの連携した取組	行い、アイヌ民博における企画展に繋げた。また、「ウポポイ割」は利用者拡充の効果が得られている。
(4) 資料館見学や地域学講座など学校教育への積極的な支援	①白老東高校との積極的な連携を
◆資料館を訪問する児童・生徒の受け入れ強化 ①白老東高校による北海道 CLASS プロジェクト「陣屋探究学習」への参画、高校生の友の会への入会	図り、生徒の郷土愛を育むことにより、友の会入会への大きなきっかけとなった。
(5) 伝統文化を伝える後継者の活動促進	①ウポポイでの定期公演が実現し、
◆本町独自の伝統技能等を有する人材の発掘、活用、発信 ①白老民族芸能保存会への支援 ②虎杖浜越後踊り保存会への支援 ③伝統文化継承者の認定、展覧会の開催	アイヌ文化の伝承と普及に努めることができた。 ②地元でのパレードや灯籠流しなどの諸行事を多くの観衆の前で実施し、さらなる伝統文化の伝承と普及に努めることができた。 ③町無形民俗文化財「伝統文化継承者」を新たに2名認定し、制作資料の展覧会を2回開催した。

課題と今後の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 陣屋跡の保存と活用を並行して行い、史跡の持つ本質的価値を将来へ確実に継承するため、保存活用計画に基づいた整備基本計画の策定が必要である。 ○ 質の高いガイド人材の育成を行うため、新たな友の会会員の確保と資質の向上が必要である。 ○ 多岐にわたる博物館活動を推進するため、ウポポイや近隣博物館等との連携が必要である。 	

8 読書活動の推進

取組の概要（目的）	蔵書の整備や読書機会の拡充を図り、誰もが気軽に利用できる親しみのある図書館づくりを推進する。
主な施策と取組内容	
(1) 親しまれる図書館を目指した施設と蔵書の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> ◆読書活動を推進する蔵書選定、適切な蔵書管理 <ul style="list-style-type: none"> ①蔵書の選定と適切な管理 ◆広く本に親しみ、読書機会をつくる事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ②ブックスタート ◆アイヌ関係資料を含む郷土資料の収集及び活用 <ul style="list-style-type: none"> ③アイヌ関係資料の展示コーナーの充実 ◆時節に応じた資料展示の充実 <ul style="list-style-type: none"> ④読書週間に合わせた取組 	①リクエストを含む蔵書 1,857 冊を購入。汚破損等 838 冊を除籍し、令和 5 年 3 月現在の蔵書冊数は 75,995 冊。 ②幼少期から絵本を介して家族のふれあいの時間を持つ大切さを保護者に伝えることができた。 ③郷土資料 45 冊を購入。町内外の来館者に白老やアイヌ文化について理解を深める機会を提供。 ④本のリサイクル市を 2 回開催し、おはなし会や工作教室の再開等、町民が広く本に親しむ機会を提供した。
(2) 利用しやすい環境づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ◆移動図書館車、本の宅配サービス等の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ①移動図書館活動 ◆ICTを活用した環境整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ②情報通信技術を活用した環境整備 	①来館が困難な町民に読書機会を提供することができた。貸出冊数 4,524 冊。 ②WEB 予約の利用登録者が増え、予約件数が 1,155 件に増加した。
(3) 家庭・地域・学校等と連携した子供の読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ◆第四次白老町子供の読書活動推進計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①公民館講座事業「親子で読書イベント」 ◆学校司書との連携による調べ学習や読書活動の支援、充実 <ul style="list-style-type: none"> ②図書管理資料貸借システム（ペガサス便） ◆保護者を対象にした読書の普及啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ③らっこランド、おはなし会 ◆読書活動団体等への支援・協力 <ul style="list-style-type: none"> ④読書活動団体等への日常的な支援・協力 	①「おはなしと音楽の会 in 蔵」を開催し、本に親しむ体験を通じて読書への関心意欲を高めることができた。 ②ペガサス便の貸出 415 冊、各学校への読書活動の支援を行った。 ③乳幼児やその保護者が本に親しむ機会の創出につながった。

課題と今後の方向性

- 町民に広く親しまれる図書館として、利用者ニーズを踏まえた環境整備や事業内容の充実を図る。
- コロナ禍以降、自宅で過ごす時間が増加していることから、保護者を対象とした「家読」の啓発や効果的な読書活動の推進が必要。
- 第五次白老町子供の読書活動推進計画の策定。
- 郷土資料の充実と積極的な活用促進。
- 蔵書冊数が施設の収蔵冊数を超過しているため、適切な蔵書管理と書庫機能を持った資料保管場の確保が必要。また、建物の不同沈下現象の悪化が見られることから、修復工事の準備を進める。

9 スポーツ・健康増進活動の推進

取組の概要（目的）	子供から高齢者までより多くの町民が、スポーツや健康増進に取り組む機会の創出に努め、本町におけるスポーツ振興の推進を図る。
主な施策と取組内容	成果
(1) スポーツ推進委員等と連携した、健康増進・レクリエーション機会の充実 ◆軽スポーツ等の普及、促進（スポーツ推進委員による学校教育や高齢者大学、スポーツイベントへの支援） ①白老町スポーツ推進委員会の開催 ◆しらおい元気まち体操の普及 ②しらおい元気まち体操の普及推進	①高齢者大学や町内小学校からの派遣依頼に応じた実技指導を行うことにより、本町のスポーツ振興を図ることができた。 ②各種スポーツイベントや派遣事業で活用するも、中止となる事業もあり積極的な普及推進に至らず。
(2) ライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進 ◆指定管理者のノウハウやネットワークを活用した魅力的なスポーツイベントや講座の開催 ①白老町体育協会におけるスポーツ施設を活用した取組 ②都市総合開発における町民プールを活用した取組 ◆スポーツ大会やイベント開催による地域活性化 ③白老町健康マラソン・ファミリーウォーキング大会 ④北海道中学校軟式野球黒獅子旗大会 ⑤白老町ゲーリング大会 ◆学校開放事業の適切な運営 ⑥学校開放事業	①Gen キングの事業に頼りがちで新たな提案は乏しい。 ②適正な管理のもとに意欲的に自主事業が行われた。 ③悪天候のため中止となり、参加賞のみを配布した。 ④参加者に野球のまち・白老をPRすることができた。 ⑤新たな参加者もあり白老町発祥のゲーリングの普及に寄与できた。 ⑥利用実態を把握・分析し、新たな申請にも対応できるようルール改正。
(3) スポーツ団体等との連携強化 ◆スポーツ団体の活動の積極的な周知 ①スポーツ団体の活動の積極的な周知 ◆指導者の育成による競技力の向上 ②町体育協会や各スポーツ団体等と連携した指導者の育成 ◆総合型地域スポーツクラブとの情報共有 ③Gen キングしらおいクラブとの情報共有	①・②新型コロナの影響により事業中止。 ③新たに札幌や苫小牧から講師を招き、気軽に参加できる各種教室の開設やサークル、スクール活動を実施した。
(4) 計画性のあるスポーツ行政の振興 ◆現状把握と方向性の検討 ①スポーツ行政全般の現状把握と方向性の検討 ②軽スポーツ等の普及、促進	①現状は施設管理が中心となっており、スポーツ・健康増進活動の推進を図ることは困難な状況であり、総合的にスポーツ行政を担当する職員の配置が必要である。 ②町の福祉部門やパークゴルフ関係団体と連携した初心者向けのパークゴルフ体験イベントを実施、運動による健康増進やフレイル予防についての意識を向上できた。

課題と今後の方向性

- 高齢化に伴い指導者の確保が難しくなっている現状や、少子化に伴い部活動や少年団が減少傾向にあるため、スポーツ環境の向上及びスポーツ振興体制の確立が急務である。
- スポーツ施設の利用者に向けた事業展開を拡げ、健康増進の機会創出が必要である。
- 北海道中学校軟式野球黒獅子旗大会は町内チームの参加が困難で、町内の青少年の健全育成と競技力の向上を図ることができない状況となっており、今後大会のあり方を検討していく必要がある。

10 青少年の健全育成

取組の概要（目的）	地域住民と連携した巡回活動の充実と、メディアコントロールの取組の促進を図る。
主な施策と取組内容	
(1) 地域住民と連携した巡回活動の充実 ◆青色回転灯車による下校時の定期的な巡回活動 ①下校時の定期的な巡回活動 ◆祭典実施時の巡回活動 ②祭典実施時の巡回活動 ◆近隣市町と連携した通学列車添乗指導 ③通学列車添乗指導	①青少年センターにおける巡回活動については週1回のペースで巡回を継続することができた。 ②・③3年ぶりに事業再開。
(2) 青少年を健全に育成する環境浄化活動の推進 ◆メディアコントロールの促進 ①メディアコントロールの促進 ◆社会を明るくする運動への協力 ②社会を明るくする運動 ◆マチコミメールによる情報発信 ③マチコミメールによる不審者情報の発信	①「青少年センターだより」にて周知する。 ②各小・中学校であいさつ運動を行い地域住民からも取り組みに対して評価を得ている。 ③児童・生徒の安全を確保する上で危惧される情報があった際に情報を発信し、関係者との情報共有を行うことができた。
(3) 悩みや不安を抱える青少年や保護者に対する相談活動の実施 ◆相談電話による個別相談、相談ポストの設置 ①青少年や保護者に対する相談活動	①相談電話による相談件数1件。
(4) 健全育成活動に地域住民が積極的な参画を促す啓発 ◆「青少年センターだより」による情報提供 ①「青少年センターだより」の発行 ◆『広報げんき』による情報提供 ②『広報げんき』の発行	①健全育成に関する情報について、定期的に保護者や地域住民に提供することができた。 ②町民の会の各種行事について、定期的に情報発信することで、町民の会への理解を得ることができた。
(5) 関係機関及び団体の連絡調整、ネットワーク化の推進 ◆白老町青少年問題協議会の開催 ①白老町青少年問題協議会 ◆関係機関や学校等との緊密な情報交流、連携強化 ②学校向けの説明用資料の作成	①青少年問題の現状と課題について、情報共有ができた。 ②学校が地域とともに行う活動の推進を図ることができた。

課題と今後の方向性

- 近年、青少年を取り巻く環境が複雑化しており、多様化する課題に対応する青少年育成関係団体の組織の在り方や活動内容について精査し、新たな体制の構築を検討していく必要がある。
- 巡回活動は地域住民と連携し充実しているが、更なる担い手の確保が求められる。
- 来年度より、時代背景の変化を踏まえ、相談方法を検討していく。

11 地域連携による教育活動の推進

取組の概要（目的）	「地域の子どもは地域で守り育てる」をスローガンに、白老町青少年育成町民の会が核となって、地域の連携を基盤とした教育活動を推進する。	
主な施策と取組内容		成果
(1) 地域連携による安全・安心な環境づくりの推進 ◆地域の教育力を高める学習機会の設定 ①白老町青少年育成町民の会への支援、連携 ◆あいさつ運動の実施 ②あいさつ・一礼運動 ◆町民の会「ひなんの家」の旗の設置、維持管理 ③町民の会「ひなんの家」の旗配布		①会員の高齢化や活動の停滞が指摘される中で、活動の在り方について、会員が自由に協議できる「話さる会」を各地区で開催し、課題と方向性の共有することができた。 ②コロナ禍ではあったものの、関係団体等からの協力を得て年3回実施することができた。そのことにより、地域との連携や地域住民と子供たちとの交流を図ることができた。 ③青少年センターの支援を受けて、町民の会が主体となって旗の交換を行うことで、一定の犯罪抑止力となっている。また、町民の会の活動をPRする効果も有している。
(2) 地域との交流活動の支援 ◆子供たちが地域住民と交流するイベントの支援、子ども会活動の支援 ①通学合宿事業、子ども会活動への支援		①竹浦地区で行われた育成行事では、子供たちがバス遠足にて、白老町を見て歩き、地元を知ることが出来、良い取組であった。
(3) 地域学校協働活動の推進 ◆学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う。		①地域学校協働本部設置要綱を制定し、本部会議を2回開催し、令和5年度の本格始動に向けた体制構築を行った。
(4) しらおい子ども憲章～ウレシパ～の具現化 ◆憲章を具現化するための各小中学校における特色ある取組への支援 ①子ども夢・予算づくり事業 ◆憲章の趣旨を地域住民や保護者などに理解・浸透を図る取組の充実 ②しらおい子ども憲章実践発表会 ◆中学生の夢や希望を育むプロフェッショナル講演会の開催 ③プロフェッショナル講演会		①しらおい子ども憲章の具現化に向けて各学校の推進委員を中心に、児童生徒が予算を活用した取組を主体的に推進することができた。 ②上記の取組内容や成果を11/19に開催された青少年育成大会において発表した。 ③国内外で活躍される音楽家の講演や演奏を聞き、トップアーティストの積み重ねてきた努力や、夢を実現するための思いに触れることができた。

課題と今後の方向性

- 少子高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響により、子供たちの成長を促す地域行事が減少している。
- 地域の課題解決に向け、具体的な取組みを推進していくことが急務である。
- しらおい子ども憲章については、これまでも各小中学校において具現化に向けた取組を行ってきたが、制定から10年を迎え、より一層の推進を図る必要があることから、取組内容の見直しを行い、より地域に根ざした事業を進めることとした。

令和4年度 第3次白老町社会教育中期計画実施状況結果

評価指標		説明
a	順調	順調に進んでいる。十分な効果が見られる。
b	概ね順調	概ね順調に進んでいる。成果が見られる。
c	やや遅れている	やや遅れている。一部、課題がある。
d	遅れている	遅れている。見直しなどの対策が必要
-	未着手または評価不可	

推進施策1 青少年教育の推進	施策	自己評価
1 しらおいの魅力に気付き、ふるさとへの誇りや愛着を育むふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や歴史など地域資源を活かした体験イベントの実施 	a
2 子供たちの主体性や協調性を育む交流機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化に親しむ交流機会の充実 ・国際感覚を養う交流機会の充実 	- (コロナ禍により未実施)
3 地域活動やまちづくりの担い手となる人材の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人を含む地域の青年の主体的な参画による二十歳を祝う会（旧成人式）の開催 ・北海道教育委員会と連携したリーダー養成研修への派遣 ・地域の青年団体等の活動への支援 	b

推進施策2 成人教育の推進	施策	自己評価
1 町民ニーズを捉えた多様な「公民館講座」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等の社会教育施設において、地域人材や関係団体など、多様な主体と連携した講座の開催 ・ICTを活用した取組の推進 	a
2 地域課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体や町内会組織等と連携した講座の実施 ・各分野の専門家を招聘した講座の実施 	a
3 女性が社会で活躍するための人材養成及び支援	<ul style="list-style-type: none"> ・国内女性リーダー養成研修等への派遣 ・地域で活躍する女性に学ぶ女性向け講座の開催 	a

推進施策3 高齢者教育の推進	施策	自己評価
1 高齢者の知識を活かした事業、世代間交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の推進 ・人材の発掘と活動機会の創出、支援 	a
2 高齢者による主体的な学習、健康増進を支える環境づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者関連事業の開催、支援 ・健康づくりに資する機会の創出、支援 	a
3 高齢者大学の主体的な運営の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者大学の活動内容の充実、積極的な周知活動による参加奨励 	a
4 高齢者の意識や認識の転換に向けた取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの高齢者モデルの設定と発信、高齢者に関する実態把握と分析 	b

推進施策 4 社会教育施設・ スポーツ施設の整備・活用	施策	自己評価
1 計画的な修繕や設備の充実による 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設やスポーツ施設の現状の把握と施設毎の分析 ・修繕改修計画の策定と適正な維持・管理 ・耐震化や長寿命化の検証 	b
2 施設の有効活用と検討、機能の 向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者との連携による施設の有効活用 ・スポーツ施設の適正な管理と既存施設及び機器を活用した事業提案に対する支援 	b
3 利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・親切丁寧な対応で親しまれる施設づくりの推進 (利用者目線にそった備品等の更新、充実) 	b

推進施策 5 社会教育活動の 推進	施策	自己評価
1 社会教育関係団体等の活動の支 援	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な団体活動のための相談、支援 	b
2 地域の多様な団体の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の意見をもとにした社会教育活動の推進 ・団体活動のネットワーク化、リーダーやコーディネーターの発掘と養成 	a
3 活力あるまちづくりを進めるた めの社会教育活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・国や道などの補助事業による財源確保 ・みんなの基金事業等、各種補助金を活用した活動の支援 ・町民の文化活動及びスポーツ活動への支援・表彰 	a
4 学習を支える情報収集と情報発 信	<ul style="list-style-type: none"> ・町の公式 facebook などを活用した社会教育事業等の積極的な情報発信 	a

推進施策 6 芸術文化活動の 推進	施策	自己評価
1 豊かな心を育む芸術鑑賞事業の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業等の開催 	a
2 町民がまちの魅力や良さに気付 く学習機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・地域について学ぶ講座の開催 ・地域への学びを深める学習教材の作成 	a
3 文化団体連絡協議会を中心とし た特色ある地域文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区における文化祭の開催 ・各団体の発表機会の提供・支援 ・町内で活動する文化団体への活動支援 	b

推進施策 7 文化財の保存・ 活用	施策	自己評価
1 陣屋跡の環境整備及び多角的な 活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の進行管理 ・史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画の策定 ・町民との協働による史跡の管理と活用 	a
2 町民に親しまれる博物館活動の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を活用した特別展やイベントの開催 ・質の高いガイド人材の養成、資質向上 ・情報誌やインターネットを活用した発信の強化 ・展示の充実 	a
3 国立アイヌ民族博物館との連携 強化	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究体制の整備、充実、歴史的遺産の相互活用 	a

4 資料館見学や地域学講座など学校教育への積極的な支援	・資料館を訪問する児童・生徒の受け入れ、町内の高等学校が行う地域学講座への協力	a
5 伝統文化継承者の活動促進	・本町独自のアイヌ文化や各地域における伝統技能等を有する人材の発掘、活用、発信 ・後世へ伝統文化を伝える後継者の育成	a

推進施策 8 読書活動の推進	施策	自己評価
1 親しまれる図書館を目指した施設と蔵書の整備・充実	・読書活動を推進する蔵書選定、適切な蔵書管理 ・広く本に親しみ、読書機会をつくる事業の充実 ・アイヌ関係資料を含む郷土資料の収集及び活用 ・時節に応じた資料展示の充実	a
2 利用しやすい環境づくりの推進	・移動図書館車、本の宅配サービス等の活用促進 ・ICTを活用した環境整備の推進	a
3 家庭・地域・学校等と連携した子供の読書活動の推進	・第四次白老町子供の読書活動推進計画の推進 ・学校司書との連携による調べ学習や読書活動の支援、充実 ・保護者を対象にした読書の普及啓発活動の推進 ・読書活動団体等への支援・協力	a

推進施策 9 スポーツ・健康増進活動の推進	施策	自己評価
1 スポーツ推進委員等と連携した、健康増進・レクリエーション機会の充実	・軽スポーツ等の普及、促進 ・スポーツ推進委員による学校教育への支援 ・しらおい元気まち体操の普及	b
2 ライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進	・指定管理者のノウハウやネットワークを活用した魅力的なスポーツイベントや講座の開催 ・スポーツ大会やイベント開催による地域活性化 ・学校開放事業の適切な運営	b
3 スポーツ団体等との連携強化	・スポーツ団体の活動の積極的な周知 ・指導者の育成による競技力の向上 ・総合型地域スポーツクラブとの情報共有	c
4 計画性のあるスポーツ行政の振興	・現状把握と方向性の検討	b

推進施策 10 青少年の健全育成	施策	自己評価
1 地域住民と連携した巡回活動の充実	・青色回転灯車による下校時の定期的な巡回活動 ・祭典実施時の巡回活動 ・近隣市町と連携した通学列車添乗指導	a
2 青少年を健全に育成する環境浄化活動の推進	・メディアコントロールの理解促進 ・社会を明るくする運動への協力 ・マチコミメールによる情報発信	a
3 悩みや不安を抱える青少年や保護者に対する相談活動の実施	・相談電話による個別相談、相談ポストの設置 ・時代に合わせた相談体制の確保	b
4 健全育成活動に地域住民が積極的な参画を促す啓発	・「青少年センターだより」による情報提供 ・『広報げんき』による情報提供	b

5 関係機関及び団体の連絡調整、ネットワーク化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・白老町青少年問題協議会の開催 ・関係機関や学校等との緊密な情報交流、連携強化 	a
----------------------------	--	---


推進施策 1 1 地域連携による教育活動の推進	施策	自己評価
1 地域連携による安全・安心な環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を高める学習機会の設定 ・「あいさつ・一礼運動」の実施 ・町民の会「ひなんの家」の旗の設置、維持管理 	a
2 地域との交流活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが地域住民と交流するイベントの支援、子ども会活動の支援 	b
3 しらおい子ども憲章～ウレシパ～の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・憲章を具現化するための各小中学校における特色ある取組への支援 ・憲章の趣旨を地域住民や保護者などに理解・浸透を図る取組の充実 ・中学生の夢や希望を育むプロフェッショナル講演会の開催 	a

5 外部評価

令和5年度(令和4年度対象)教育委員会事務の管理及び執行状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

(1) 学識経験者

氏名 広地紀彰 
所属等 白老町PTA連合会会長

氏名 岡田路明 
所属等 元白老町社会教育委員

(2) 意見聴取日等

令和5年8月25日(金) 場所: 白老町教育委員会会議室

(3) 主な意見

《学校教育課》

「新しい時代に生きる子供たちの豊かな成長を支え育む」については、特に、教育は町の発展にも非常に影響があるものです。学力については、全国平均以上の結果であったことは、安心しましたが引き続き、白老町スタンダードを中心として取組を強化してください。いじめや不登校の対応も様々な方法で取り組んでいることはわかりますが、いじめは、その後の人生にも非常に大きく影響し、人材育成の観点からもマイナスであるため、いじめは、絶対にいけないことであることを徹底してください。

また、読書活動や体験活動の充実、食育の推進などを通して子供たちの五感を刺激し、いろいろなことにチャレンジしてみようとする「やる気」のある子供を育ててください。

「地域に信頼され、地域とともにある学校づくり」については、白老を大切に思う子供たちの育成には、自分たちの住んでいるまちのことを学ぶ白老未来学は、非常に有効であると考えます。

また、地域学校協働活動の充実により、地域の方が活躍することは、地域の活性化と学びつづける人を育成することにつながっていくものと考えますので、積極的に進めてください。

「多様化するニーズに対応した教育環境整備の推進」については、教職員を支援する取組は積極的に行うべきです。教職員は、本当に大変な状況にあり、国も進めているものですが、1つでも多くの有効な手段を取り入れ、改善を1歩でも2歩でも進めてください。

また、ICT機器を活用した竹浦小と虎杖小の遠隔授業は、小規模校のデメリット解消に向けた取組みとして評価できるものと捉えています。

《生涯学習課》

「**主体的な学びへのきっかけづくり**」については、持続可能な社会教育活動、コミュニティづくりにおいて、若者の人材育成や、学校教育で学べないような体験活動の機会を通して、サークル活動の楽しさを体感してもらう事が肝要です。町内で潜在化する意欲的な若者の掘り起こしを図るべく、公民館活動の更なる充実を期待します。

また、「みんなの基金」は、新たな町民活動に即応するとともに、今後も誰もが利用しやすい運用が図られることを望みます。

そして、蔵の主体性ある活動は、多彩なステージを企画するなど小さな町にとって魅力溢れるものであり、建物の今後のあり方について考え方をしっかり整理してください。

「**学びや活動を通したつながりづくり**」については、高齢者大学校舎の環境改善を求める声があることから、一日も早く移転がなされるとともに、移転先においては高齢者と子供など、地域や世代間交流を通してお互いが生きがい・やりがいを感じられる取り組みを推進してください。

また、青少年の地区育成会における地道な活動は、地域の見守りの要となっている一方で、活動資金がままならない現状にあることから、行政に対して、地域の子供は地域で守り育てる環境を維持していくための必要な支援を望みます。

「**郷土を愛し、次代を担う人材の養成**」については、一般的に博物館の来館者は減る傾向にあるにも関わらず、陣屋資料館が入館者数を伸ばしていることや、ウポポイとの連携が図られていることは大変評価に値します。

古くから和人との共生の歴史がある白老町において、陣屋とウポポイの調査研究の連携をこれまで以上に深め、陣屋の更なる魅力向上に努めるとともに、陣屋資料館友の会の活動が充実することを期待します。

「**学びやつながりづくりの拠点となる環境の整備**」については、図書館や博物館、公民館は学校と同様の教育機関に位置づけられており、これら施設の存在は、そのまちの文化のバロメーターとも言えるものです。文化の振興は地域の発展に欠かせないものであり、企業誘致においても優劣を生む要因にもなり得ることから、暫定措置として存在する現図書館利用の安全安心を確保することは勿論ではありますが、学習の場や居場所づくりなど、望ましい図書館機能のあり方を明確にしながら、たくさんの町民が利用しやすい図書館の一日も早い整備を望みます。

また、スポーツ施設の有効活用により町民の健康づくりが促進されるべきであり、トレーニングルームをはじめ、体育館やプールなどの町内スポーツ施設について、利用者ニーズを捉えた快適な環境整備と指導体制を充実してください。

本町の教育行政は、学校教育、生涯学習のどちらも他の市町村と比べても、さまざまな施策を展開していると捉えています。引き続き、現状をしっかりと把握しながら、学校教育、生涯学習と連携しながら進めてください。